

弦楽合奏団

エテルニータ

結成記念コンサート

Eternita — イタリア語で“永遠”という意 —

2003年1月12日(日) 2:30pm
パーティとちぎ女性センター

🎵 結成記念コンサートによせて 🎵

片山 淑子

本日は寒中にもかかわらず、弦楽合奏団「エテルニータ」結成記念コンサートにお越しいただきまして有難うございました。

「エテルニータ」にはイタリア語で永遠という意味があります。

宇都宮短期大学附属高校音楽科、または宇都宮短期大学で学んだ有志で結成され、年齢や経験の多少にかかわらず末永く活動していこうという願いを込めて名付けられました。

2000年3月に行われた宇都宮短期大学百周年記念コンサートの楽屋で再会した

仲間(30年ぶりというのもめずらしくなかったのです)の

お茶飲み話の中での一言「何かやらない…?」が発端となり

在栃木の仲間が働きかけて有志をつのり、ここに17名の仲間が集まりました。

何事もそうですが学んでいこうとする者に終わりはありません。

世界中に偉大な作曲家達が数えきれない程素晴らしい作品を残してくれました。

独奏はさておき合奏は目的を同じとする仲間が集まって可能となります。

「エテルニータ」はそれらの合奏の多くの作品の中から少しずつつえらんで勉強し、

作品に触れ前進していこうという意思を持った音楽家の集まりです。

仕事や家事のあい間を17名がスケジュールをやりくりして集まるのは正直言って大変でした。

練習の回数も限られ困難も多かったのですが、今日となっては思い出となりつつあります。

本日はドキドキしながらも良い演奏会にしたいと思っておりますので

「エテルニータ」の響きを心ゆくまでお楽しみください。

最後になりましたが、この演奏会のためにたくさんの方々にお力添えをいただきましたことに

心から御礼申し上げたいと存じます。今後どうぞ宜しくお願い致します。

🎵 プログラム 🎵

ヘンデル コンチェルトグロッソ Op,6-1 ト長調	I A tempo giusto
G.F.Haendel Concerto grosso Op,6-1 G-dur	II Allegro
	III Allegro
	IV Allegro

マルチェロ オーボエコンチェルト ニ短調	I Andante e spiccato
A.Marcello Oboe concerto d-moll	II Adagio
	III Presto

ヴィヴァルディ コンチェルトグロッソ Op,3-1 ニ長調	I Allegro
A.Vivaldi Concerto grosso Op,3-1 D-dur	II Largo e spiccato
	III Allegro

休憩 (15分) チェンバロの調律をいたしますのでお静かに願います。

バッハ チェンバロコンチェルト BWV1052 ニ短調	I Allegro
J.S.Bach Cembalo concerto BWV1052 d-moll	II Adagio
	III Allegro

レスピーギ 『リュートのための古風な舞曲とアリア』	I Italiana
O.Respighi "Antiche danze e arie per liuti"	II Arie di Corte
	III Siciliana
	IV Passacaglia

🎵 プログラムノート 🎵

指揮者の脇に当てられたスポットライト。割れんばかりの拍手に迎えられ、スポットに納まるソリスト。

バックにはオーケストラが配されている。雄々しく楽器を構え、流麗なフレーズがホールに響く…。

「協奏曲」という邦訳が示す通り、ピアノやヴァイオリンなどの独奏楽器とオーケストラが競演する、

今日いわゆる「コンチェルト」と言われるジャンル。

作曲家と独奏者が、その芸術性とエンターテインメント性を高く融合・昇華させるその音楽は、演奏会の花形といえるでしょう。

コンチェルトには二つの語源の流れがあります。

まずイタリア語の「協力・一致・調和」、続いてラテン語の「競争・対比・闘争」という流れです。

本来ラテン語から派生しているイタリア語ですが、両者の意味は全くの正反対です。

これは、コンチェルトというスタイル特有の独奏部と合奏部の緊張感を忍ばせた関係にも似て、

なかなか興味深い現象でもあります。

G.F.ヘンデル ◆ コンチェルトグロッソ op.6-1 ト長調

この作品を書いている時期、ヘンデルはおよそ創作の頂上に達していました（代表曲にして傑作である「メサイア」もこの時期に書かれています）。イギリスの批評家バーニーの言を借りるならば「言い残されたものは何もない」という作品です。同時代のバッハが構造的・和声的な追及を深めたのに対して、ヘンデルの協奏曲はいかに音色に命を吹き込むかという点に苦心しているようです。合奏部が鳴らされたときに感じられる響きの心地よさがそのことを雄弁に物語っています。この作品も、明朗さと力強さを併せ持った実にヘンデルらしい音楽です。

A. マルチェロ ◆ オーボエコンチェルト 二短調

この作品から真っ先に思い出されるのが、1970年に公開された映画「ヴェニスへの愛」です。第2楽章アダージョが映画のタイトルテーマに用いられており、オーボエとオーケストラの織り成す牧歌的で長閑な緩徐楽章は、スクリーンに豊富なイメージを与えていました。マルチェロは作曲家に留まらず、演奏家、歌手、画家、詩人、哲学者に数学者と文化全般に渡っての才人でした。そんな彼に音楽の分野で成功に導いたのが、バッハです。彼はこの作品を自身のチェンバロ独奏用に編曲するなど(BWV974)、マルチェロへの注目を見せています。シンプルながらも強い統一性が貫かれている第1楽章と第3楽章、それと先の第2楽章のコントラストも鮮やかです。

A. ヴィヴァルディ ◆ コンチェルトグロッソ op.3-1 二長調

ヴィヴァルディの「op.3」には「調和の靈感」というタイトルが冠されています。330曲ほどある彼の弦楽協奏曲の中でも最初に出版されたのが、この作品です。4つのヴァイオリンとチェロのための合奏協奏曲ですが、独奏部に名人的技巧が配されているわけではなく、各々のソロが織り成し、交し合う対話が印象的です。特に、2本の独奏ヴァイオリンがハーモニーを織り交ぜながらつくる進行は、作品全体を通じて幾度も姿を現わし、作品を特徴付けています。独奏部の対話は次第に舞曲の様相を呈し始め、第3楽章では独奏ヴァイオリンの華々しい活躍を聴くことができます。

J.S. バッハ ◆ チェンバロコンチェルト BWV1052 二短調

1723年、バッハはよりよい経済的待遇を求めて、住み慣れたケーテンを離れ、ライプツィヒに移住しました。ここで彼は教会オルガニストとして夥しい数のカンタータの作曲に忙殺されるのですが、1730年から33年の間に集中的にチェンバロのためのコンチェルトを書き上げています。この作品はその最初期に書かれています。当時主流だった、イタリアのバロック風のコンチェルトグロッソ的な構成から離れて、自由な構想が散りばめられています。バロック時代のチェンバロ奏者は、即興的な演奏で作品に新しい彩りを添えていました。そうした習慣に関係してか、バッハの作品にしては若干のラフさを残しており、そこがかえって新鮮な響きを生み出しています。

O. レスピーギ ◆ リュートのための古風な舞曲とアリア

アヴァンギャルドであった近代音楽史において、過去の歴史に創造性を求めるレスピーギの視点はなかなかユニークでした。代表作である交響詩「ローマの噴水」にしてもその題材は歴史の風物に目が向けられています。リュートは15世紀頃に用いられていた弦楽器です。レスピーギはかつてのリュート演奏家の作品を、自分が教鞭を取っていた音楽院の図書館で発見。自分のイデオロムで翻訳し、4曲から為る組曲を3つ、編纂しました。どれも原曲の持つ気品や香気を滲えつつ、現代的なテイストを持った不思議な手触りがあります。過去と現代を巧みにリンクさせたこの色彩は、レスピーギの代名詞といっても過言ではありません。イタリアーナ、宮廷のアリア、シチリアーナ、パッサカリアで構成されたこの第3組曲はその中でも特に親しまれている作品です。 (小崎 紘一)

13歳よりオーボエを始める。宇短大附属高等学校音楽科、東京芸術大学音楽学部卒業。同大学在学中、室内楽オーデイション合格、木管五重奏で演奏会に出演。93年、東京文化会館新人オーデイション合格、同会館演奏会出演。96年、浜松国際管楽器フェスティバルに於て新人演奏会に出演。オーボエを斎藤享久、鈴木尚雄、河野剛、小畑義昭、G・シュマルフスの各氏に師事。現在、演奏活動を行いながら、宇都宮短期大学及び附属高等学校音楽科オーボエ講師、亜細亜大学吹奏楽団オーボエ講師を勤めるなど、後進の指導にも力を注いでいる。

弦楽合奏団『エテルニータ』メンバー

- ヴァイオリン** Violin
- 青柳 敬子** 宇都宮短期大学卒業。増田貴子、星野和夫、吉村成司、鈴木鎮一の各氏に師事。現在、才能教育研究会宇都宮支部バイオリン科指導者。宇都宮室内合奏団、スズキアンサンブル「弦」メンバー。
- 片山 淑子** 札幌在住。国立音楽大学ヴァイオリン科卒業。在学中、故 久保田良作氏に師事。卒業後、ソロ、室内楽を浦川宜也氏に師事。アンサンブル「どるちえ」を結成し小学校はじめ道内各地にて演奏活動。1990年にリサイタルを行う。札幌交響楽団に5年在籍。現在、後進の指導に力を入れている。
- 川俣 洋子** 国立音楽大学器楽科卒業。同大学大学院器楽専攻修了。イタリア、シエナのキジアーナ音楽院夏季講習会に参加。岩本政蔵、井上武雄、鷺見健彰、鷺見四郎、石橋洋子、梅津南美子の各氏に師事。宇都宮にてジョイントリサイタル、ヴァイオリン二重奏の夕べ開催。アルビノーニ室内合奏団を経て、現在、フリーの演奏家としてオーケストラ、室内楽等で活動中。
- 小松崎 倫子** 武蔵野音楽大学器楽学科卒業。故 鈴木史子、萩原耕介の各氏に師事。栃木県交響楽団、ベルベート弦楽四重奏団、宇都宮室内合奏団に所属。宇都宮市立旭中学校教諭。
- 駒橋 博美** 東京音楽大学卒業。大野正三、吉村成司、鷺見健彰、三戸泰雄各の氏に師事。ミルトン・トーマス氏（ビオラ）、森下幸路氏にアドバイスを受ける。卒業後は、ソロ、アンサンブルでのコンサート出演、都内、地方オーケストラへのエキストラ出演、スタジオ録音、タンゴ、ジャズバンドなど、各方面に渡り活動を行う。現在は主に県内でアマチュアオーケストラのゲストコンサートミストレスとして出演、後進の指導の側ら、ピアニスト、琴奏者などとのデュオを組んで活動を行う。
- 篠原香乃子** 武蔵野音楽大学器楽学科卒業。故 永岡国雄、吉村成司、星野和夫、掛谷洋三の各氏に師事。卒業後、オーケストラ、室内合奏等にエキストラ出演。ヴァイオリン教室「カノン」を開き、これまでに、楽器店、宇都宮コミュニティカレッジ、柿の木幼稚園で講師を務めるなど後進の指導にあたっている。宇都宮室内合奏団メンバー。
- 福富 恵子** 宇都宮短期大学卒業。吉村成司、鷺見健彰の各氏に師事。現在、室内合奏団、オーケストラ等に参加。柿の木幼稚園で講師を務めるなど後進の指導にあたっている。宇都宮室内合奏団メンバー。
- 星野 和夫** 慶應義塾大学哲学科(美学)卒業。宇都宮短大音楽科・作曲主任教授。ヴァイオリンを久保田良作、指揮を山田一雄等の各氏に師事。作曲は独学。これまで、栃木フィル、鹿沼フィル、宇都宮室内合奏団の各指揮者を歴任。現在、宇都宮短大・弦楽オーケ、同合唱及びBBU等の指揮者、メイプル四重奏団のVn.&Va奏者。また、国際芸術連盟の作曲家会員として、主に首都圏にて作品を発表。
- 村岡 聖子** 武蔵野音楽大学器楽学科卒業。青柳敬子、萩原かおり、星野和夫、田尻順、ゲオルギバデアフの各氏に師事。2000年ブラハサマースクールのマスタークラスでヴィーツラフ・スニーチル氏に師事。カワイピアノ発表会ゲスト演奏や盲導犬チャリティーコンサート、小学校記念式典での演奏会などを行う。現在、柿ノ木坂芸術学校講師、フロイデフィルハーモニー団員。後進の指導にあたっている。
-
- ヴィオラ** Viola
- 阿久津雅志** 宇都宮短期大学卒業。鷺見健彰、吉村成司、鈴木鎮一、小林武史の各氏に師事。現在、才能教育研究会宇都宮支部バイオリン科指導者。ミュンヘンにて行なわれた指導者大会に参加。韓国(2回)、オーストラリアにて演奏とバイオリン指導など多数。宇都宮室内合奏団、スズキアンサンブル「弦」メンバー。
- 小崎えり子** 国立音楽大学器楽科卒業。群馬交響楽団在籍後、ラーク弦楽四重奏団でヴィオラを中心に活動。現在群馬室内合奏団団員。室内楽を中心に、演奏活動をしながら後進の指導に当たっている。宇都宮室内合奏団メンバー。
- 川沼 文夫** 宇都宮短期大学音楽科バイオリン専攻卒業。東京芸術大学別科ビオラ専攻卒業。立花和夫、吉村成司、鷺見四郎、中塚良昭、鈴木鎮一の各氏に師事。現在、才能教育研究会宇都宮支部バイオリン科指導者。宇都宮室内合奏団、スズキアンサンブル「弦」メンバー。
-
- チェロ** Violoncello
- 荒川 育子** 国立音楽大学器楽科卒業。現在、室内合奏団、オーケストラ等に参加。後進の指導にあたる。宇都宮室内合奏団メンバー。
- 玉川 克** 1996年 栃木県学生音楽コンクール1位入賞。1998年 札幌チェロジュニアコンクール奨励賞受賞、日本クラシック音楽コンクール3位入賞。現在、桐朋学園大学カレッジディプロマコース3年在学中。宮田豊、尾形篤信、増淵滋、林峰男、倉田澄子の各氏に師事。
- 野村 奈美** 武蔵野音楽大学卒業。チェロを尾形篤信、清水勝雄、ヴァーツラフ・アダミーラ、花崎薫の各氏に、室内楽を磯良男氏に師事。現在、室内楽やオーケストラなど各方面で活動している。
-
- コントラバス** Contrabass
- 増山 一成** 東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。ウィーン国立音楽大学に留学。沖不可止、今村清一、江口朝彦、小野崎充、ルートヴィッヒ・シュトライヒャーの各氏に師事。現在、読売日本交響楽団団員。宇都宮短期大学附属高校音楽科非常勤講師。エローラアンサンブルオーケストラ、宇都宮室内合奏団メンバー。
-
- チェンバロ** Cembalo
- 沼尾美和子** ヴィーン音楽院ピアノ、チェンバロ科卒業。ディプロム取得。ヴィーン音大ハウアー12音クライス研究員。在学中、音楽祭やラジオ放送に出演。古楽奏法をモーツァルトテウムにてN.アルノンクールに師事。帰国後、チェンバロ、フォルテピアノソロや東京プリステンの国内外のコンサートに出演。東京オペラシティにて『チェンバロ・デュエット』リサイタル。長野SBC放送アンサンブルトレーナー。とちぎ古楽協会音楽監督。CD『CARILLON』"93Wien